

令和6年10月1日

学校法人 西鉄学園
西鉄自動車整備専門学校
校長 椎葉 小夜子

「自己評価及び学校関係者評価結果（令和5年度版）」 報告

学校法人西鉄学園 西鉄自動車整備専門学校では、令和5年度の自己点検・自己評価を実施し、本校規程に基づき学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここに学校教育法施行規則第189条に則して「自己評価及び学校関係者評価結果（令和5年度版）」を公表いたします。

学校関係者評価委員会からのご意見を真摯に受け止め、教育力の更なる向上、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■学校関係者評価委員

	氏 名		所属等
企業・団体	自動車業界	井上 皓介	トヨタカローラ福岡株式会社 総務部 人事グループ グループ長
		石丸 淳一	トヨタカローラ福岡株式会社 サービス部 技術グループ グループ長
	業界団体	寺崎 浩二	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部 部長
	教育有識者	平野 孝幸	高等教育有識者 (高等学校校長経験者)
	卒業生	松尾 哲也	日産福岡販売株式会社 サービス本部 HITEQ センター 課長代理
事務局 (学内)		椎葉 小夜子	理事・校長
		目原 宏輝	教頭
		浅井 朋晃	総務・学生課 係長
		村井 悠紀	教務・就職課

西鉄自動車整備専門学校 自己評価及び学校関係者評価結果(令和5年度版)

令和6年10月1日公開

評価項目	自己評価	学校関係者評価
(1) 教育理念・目的・人材育成像 ----- ○理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業界で求められるスキルを確実に身につけるために、学習の習熟度を高めるための小テストや単元テストを取り入れて知識の定着を図っており、徐々に成果が表れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨今の学生は、主体的に考え分析し、想像することが苦手だが、デジタルコンテンツ等の活用により考える習慣をつけさせ、理解の促進、並びに技術の習得につなげてほしい。 ・ 将来のイメージを持たせて学ぶ意義を理解させ、動機づけをしてほしい。 ・ 学生同士教えあうことを通して仲間とともに学ぶ楽しさや共に成長する喜びを感じるなど、学生間の関係性を深められる時間を作ると良いと思う。
(2) 学校運営 ----- ○情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報管理については、責任者を設置し、適切に運用している。 ・ 複数体制を敷き、担当者不在のイレギュラー対応が図れるようにしている。 ・ 複数体制の機能をいかに活性化させるかが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者だけではなく全員がシステムを理解し、様々な事態に対応できるようにしておくことが必要。 ・ SNSの扱い方に特に注意が必要。
(3) 教育活動 ----- ○教育目的・目標に沿った教育課程 ○キャリア教育の実践 ○作品及び技術等の発表における成果の把握 ○教員の質向上への取り組み ○教員の組織体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度より開始される整備士養成課程の新カリキュラムへの対応が課題であり、先行して移行した3級過程を参考にし、情報が開示された時点で即座に対応できるよう準備を進めている。 ・ 学生のニーズに応えながら学生が授業に積極的に参加し、目標を達成できる工夫を凝らした学習指導と、教材の充実が必要。 ・ 社会人としての躰面の強化を図るため次の2点を課題として取り組んでいる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 専門知識を得ること、人間性の成長の必要性を感じさせるため、より業界との連携を深めて教育課程を編成すること。 ② 業界から求められる人材となるための素養と自己成長のための自発的な学びの必要性を理解させ、如何に取り組ませるか。 ・ 専門学校協会や業界が主催する研修等に参加しており、自己啓発支援制度も設けている。しかし、研修が授業と重なり研修参加が叶わないこともあり、計画的に研修等の日程を組み、容易に時間調整ができる環境の整備が必要。 ・ 業界で進む最新技術への教育の充実が必要であり、現役メカニックによる技術指導の充実を図るためにも業界との連携の推進を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新カリキュラムの内容は近々(1~2ヶ月)公開されると予想するが、それまでは現状を踏まえた対応とならざるを得ない。旧制度となる現状のカリキュラムでの資格試験は令和10年10月が最後となるため、令和6年度入学の3年課程留学生コースの学生に対する教育を新旧どちらで行うか、その判断も必要となり、それについても今後の動きを考えないといけない。また、試験日程の前倒しも検討されており、早ければ令和7年度の試験より実施される。この対応も今後必要となる。 ・ 昨今の現場では車両診断機の利用が多いが、それはメーカーによって違うので働き出してから覚えていくことになる。教材の充実を図っていくことも大事だが、積極性の醸成が必要。大勢の前で意見が言えない学生が多いと思うので、グループ学習など意見を言いやすい環境を作ると良いと考える。また、リーダーシップの醸成も必要と考える。各グループにリーダーを置き、毎回リーダーを変えて学生に体験させ、リーダーシップの役割やリーダーシップを発揮することがいかに重要かを植え付けることも社会に出てから役立つ。 ・ 昨今の若者は語彙力の低下が顕著である。この傾向は教える側にも見られる。教員の研修も重要だが、読書等によって普段から語彙を増やし、それを教育に活かしてほしい。 ・ メーカーによって異なる車両の整備技術を習得させるために、企業から教材の提供を受けるのも良いのではないかと考える。 ・ 教材の充実はもとより、分からないことを分からないと言える、自分の意見をはっきり伝えるといったコミュニケーション能力の向上を図ることが必要。 ・ 高校では心・技・体を大切にしており、やはり心の部分や躰面の教育も必要。また、就職しても体力がついていかず退職してしまう者もあり、体力をつけさせることも必要になってくると感じている。 ・ 躰面に関しては、挨拶や時間といった基本ができていれば問題ないと思う。以前に比べると随分良くなっており、企業説明会でも遅刻する学生もいなくなっている。

		<ul style="list-style-type: none"> 企業の新入社員研修では、言い訳めいたことを言って誤魔化したり、嘘をつかせないようにするなど、人間形成に重点を置いた指導を行っている。怒られたくないといった自己防衛の行動を取る者に対して自己内省を促し、自分を律する力を養うように取り組んでいる。 「厳しくするところは厳しくする」といったスタンスやメリハリが必要。これは日頃からの信頼関係が構築されていることが前提で、普段のコミュニケーションがどれだけ取れているかが重要となる。
(4) 学修成果 ----- ○資格・免許取得率向上への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 本学の必達目標として二級自動車整備士資格の合格率100%を挙げ、教職員一丸となって指導に当たっている。しかし、資格取得の重要性を真に持たせきれておらず、必ず取得する意気込みを持たせる取り組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得は何より重要。分からないときは分からないと言えるような日頃からのコミュニケーションも必要。
(5) 学生支援 ----- ○留学生に対する相談体制の整備 ○学生の経済的側面に対する支援体制	<ul style="list-style-type: none"> 外国人留学生に対応できる体制の更なる整備が課題であり、外国籍の職員の採用を検討する。 留学生の学費支払いの遅延が課題であり、遅延している学生への面談を行い、負担を軽減させるために納入計画を立て実行させている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本人には国の奨学金制度など支援が充実しているものの、留学生は学校独自の支援制度に頼る部分が多く、苦学生という側面が強いと感じている。学びたい者には何とか支援して学ばせてあげてほしい。
(6) 教育環境 ----- ○教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等の整備	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備は設置基準、関係法令に適合しているものの、車両を用いた実習を行う実習場には空調設備が整っておらず、夏場の熱中症対策が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 大がかりな空調設備の導入は難しいと思うが、スポットクーラーはあった方がよい。企業によってはファン付きベストを導入している。昨今の暑さを考えると、今後入学を検討する学生の保護者が危惧することにもつながり兼ねないので、何かしらの対策をしたうえで体力を維持するための方策や健康維持を考えた方がよいと思う。
(7) 学生の募集と受入れ ----- ○学生募集の適切かつ効果的な実施	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスの運営には在校生も携わり、参加者の不安軽減に努めている。受験希望者に学校の教育内容や状況が十分に伝わっているか、検証のしくみを検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の良さを伝えるときには、他校との比較が有効である。良いところを紹介するだけでは自己満足に陥る。他と比較して学校の強みを明確化することが重要。
(8) 財務 ----- ○予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> 年度予算計画を作成し、目的に応じて予算が執行されている。 月度収支及び年度収支見込を理事会で確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に問題ない。
(9) 法令等の遵守 ----- ○学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護については、方針・規定を定めて運用しており、十分に注意を払っている。 システム管理業務を行う次世代育成が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> SNS の取り扱いについては、継続して注意喚起を行っていくことが必要。学校の管理下から逃れて、見えないところでの投稿によってトラブルとなることも耳にする。また、道徳教育も必要。本人が善悪の判断もつかずにやっていることもあるかもしれないので、実例を挙げて説明することが求められる。
(10) 社会貢献・地域貢献 ----- ○国際交流への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 自動車整備士を希望する外国人留学生のために、受入制度や学科の学習環境を整えているが、日本語でのコミュニケーションの向上、さらに接客に対応できる日本語能力を向上させる取組が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備士も必ず接客をするため、日本語能力検定 N2 を採用試験受験時に必須としている企業もある。過去の卒業生と比較すると日本語能力が下がっている印象があるが、日本人の友人が多い人ほどよく喋れる傾向があるので、日本人との接触機会を増やす必要がある。